

平成27年度第2回京都市青少年活動推進協議会

1 日 時 平成27年7月30日（木）午後6時～8時

2 場 所 京都市男女共同参画センター「ウィングス京都」

3 出席者（敬称略）

山本 智也（会長）	大阪成蹊大学教育学部教授
安保 千秋（副会長）	公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長
雨宮 万里子	京都市少年補導委員会理事
岡本 雅之	日本労働組合総連合会京都府連合会青年委員会委員
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表
川端 英樹	京都保護観察所長
神崎 清一	公益財団法人京都YMCA総主事
佐々木 佳代	同志社女子大学名誉教授
佐野 光平	公募青少年委員
澤井 早和乃	京都市保護司会連絡協議会会長
高橋 あゆみ	公募青少年委員
中川 多鶴子	京都府府民生活部青少年課長
野田 正人	立命館大学産業社会学部教授
橋本 太加伸	京都府警察本部少年サポートセンター所長
山本 純	京都市PTA連絡協議会常任理事

4 会議の概要

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて
- (2) その他

5 会議で出された意見等（要旨）

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて

① 子どもの貧困対策について

- ・ 今後の方向性として、中3学習会の参加者の中学卒業後のフォローについても視野に入れる必要がある。
- ・ 青少年活動センターでの居場所づくりだけでなく、学校や児童館等との情報共有や連携の仕組みを持つ必要がある。庁内でも総合的な議論をしてほしい。

- ・ 貧困によって阻害されている心身の成長なども含めた広い意味での貧困への取組が必要であることから、居場所機能の強化にとどまらないことを記載してほしい。

② 高校連携専用窓口について

- ・ 高校へのキャリアコンサルタントの派遣から連携専用窓口設置への変更にあたっては、信頼関係の構築がないと機能するののかとの不安がある。日常的にコミュニケーションを取ることが必要であると思う。
- ・ 高校へのキャリアコンサルタント派遣について、国の補助が終わったからやめるというのではなく、京都市で独自の事業を展開してほしい。
- ・ 保護者も孤立したり、相談先を探すことに疲れ、次の行動を起こせない状態の方もいる。専用窓口を中学生や高校生に限定するのではなく、そこに関わる保護者もサポートすることはできないか。
- ・ どのようにサポートして導いていくのかという具体的な取組を考えておく必要がある。そのことが「丁寧な対応」につながると思う。
- ・ 通信制の単位制の高校が多くある。高校中退後に入学するケースもあるが、新しい学び方として入学するケースもあり、新しい道筋として認識しておいてほしい。

③ 相談のしおりの配布等の周知拡大について

- ・ 配布だけでなく、子どもたちや保護者に読んでもらうために学校との協力が必要である。
- ・ 子ども・若者総合支援や若者サポートステーションの取組について、町内での回覧を検討してはどうか。
- ・ 学校だけでなく、PTAを利用した広報の仕方も検討してはどうか。

④ ひきこもり支援について

- ・ ひきこもりの支援の中では、発達障害等の就学前からの支援が必要な事例がある。また、保護者が障害となっている事例も少なくない。
- ・ ひきこもりについて、潜在化している当事者をいかに支援の場につないでいくかが難しい。早期対応として、教育委員会や学校との連携は重要である。

⑤ 多様な機関との連携について

- ・ 子ども・若者のネットワークだけではなく、児童相談所や学校等との連携の中で、どのような対応が可能になるのかを検討する必要がある。情報を伝達するだけでなく、具体的な動きにつながると良い。

⑥ 地域での取組について

- ・ 地域の人たちが支援に関わるという方向性を出すことが重要である。民間のボランティアでは、自分の家を提供して、非行に走る手前の子ども、貧困のために塾には行けない子どもを支援する取組を行っている。地域の力は大きいと感じる。

⑦ 青少年の抱える困難について

- ・ 「困難を有する青少年」と大括りにしてあるが、孤立や貧困、不登校、いじめなど想定する困難がかなり多様である。背景にあるものを丁寧に見ていかないといけない。
- ・ うまく人間関係が作れずに心の貧困に陥っている子どもが社会に出ていけなかったり、大人を信用しないと心に決めてしまっている子どももいる。そういう子どもたちへの支援ができないか。
- ・ 触法少年や若者のセクシュアルヘルスに関する問題も課題であると考える。
- ・ 青少年世代のシングルマザーに対するフォローアップが必要ではないか。子どもの貧困対策につながると思う。
- ・ 青少年の抱える課題について、行動計画には書き切れないが、基本計画の中で取り組んでいることも多い。見直しの焦点となっていない部分も、推進していったほしい。